

1/14 (日)

# 「通常医療受診できない」

## 助言委分析

新型コロナウイルスの感染症対策を助言する厚生労働省の専門家組織「アドバイザリーボード（AB）」は1月12日、会合を開き、感染者の急増で「通常であれば受診できる」との分析結果をまとめた。年明けからは首都圏に

関東、九州でも新規感染者が急増した」と指摘した。

ABの資料によると、1月11日までの直近一週間で、10万人当たりの感染者数は東京都が91人と全国で一番多く、宣言が出された栃木や

大阪、福岡でも40人を超えている。大阪は飲食店の時短営業に取り組み、減少傾向を示すが、再び増え始

めている。医療体制も厳しくなった。医療を受かる人ができぬ状況が続き、11日時点の病床使用率は東京での割合を超え、埼玉、大阪、兵庫、広島、福岡で7割超だ。

医療体制の逼迫に伴い、入院先を療養先が決まらず、入院先を見つかられない人が増えている」と明かした。

全国的な感染者の急増について、ABは「昨年末の感染者拡大は職場の宴会や若者の中での飲食が要因だが、年明けには飲食店の午後8時までの時短営業を求めているが、不要不急の外出や感染につながりやすい形での飲食は、時間がとられず、自粛することも重要な指摘だ。

一方、日本医師会の中川俊朗会長も13日の記者会見

で、感染者急増で通常の入院を断る事態も起き、「医療崩壊が進行している」と危機感を表明した。

【金秀連、石田奈津子、村田拓也、矢澤秀輔】